

いるようなものです。

「」のような私たちに響いてくるもの「」の言葉があります。

## 「お前も死ぬぞ」

これはインターネット「輝け！お寺の掲示板大賞」の大賞を受賞した言葉です。実はこの言葉は、岐阜教区教化委員会が作成した法語で、教区内寺院の掲示板に貼ってあった言葉を見られた方がSNSに投稿したところ、広く拡散され一躍話題となりました。投稿された方の言葉には「生も死も平等に存在し、どちらが特別というのではない」と教えてもらったように思います」とありました。「死」は、普段は他人事としてしか考えられませんが、事実、死は誰にでも平等にやってくるのです。言葉との出遇いによって、突然、我が身の問題として突きつけられてきます。

「お前も死ぬぞ。」

ポーンと生きてんじゃ

ねえよー！」

いずれ死すべき身を、私は今どう生きるのか。何を依り処として生きるべきか。目を開けて眠っている私に、目覚めた人（覚者）から、「大切なことにお前も目覚めよー」と呼びかけられているのです。その問いを起点に歩みが始まります。

